

日本史 A

1 身近な素材に配慮した授業展開例

- <主題> 「きつねどん兵衛」の試食を通じて、近世の商品流通のしくみを探求する
<解説> 「東西のどん兵衛に味の違いがあるのはなぜか？」という素朴な問いから出発して、東西の食文化の差違、その背景にあるコンブの流通経路（北前船による「コンブロード」）を探求していく。

2 地域素材に配慮した授業展開例

- <主題> 本巣郡における富有柿栽培の発展に関する歴史的背景を探求する
<解説> 富有柿栽培の発展を、古地図と現在の地図との比較、繭価額と柿価額の推移のグラフ化などの作業的学習を通じて、昭和恐慌による養蚕の衰退という歴史的な背景と関連づけて学ぶ。

3 体験的学習に配慮した授業展開例

- <主題> 「きびだんご」の試食を通じて、近世～近代の農民の生活を探求する
<解説> 童謡「ももたろう」の「きびだんご」って何？、という素朴な疑問から出発して、実際の「きびだんご」を試食し、背景にある農民の生活の様子や、その推移について探求していく。

4 生徒の主体的活動に配慮した授業展開例

- <主題> 生徒が自ら課題を設定して「調べ学習」を展開する
<解説> 課題を設定する力を「問題発見力」、調査する力を「問題解決力」、まとめて発表する力を「自己表現力」と規定し、自ら課題を設定して「調べ学習」を展開する。

1 身近な素材に配慮した授業展開例

教科(科目)	日本史 A	単元名	(1) 歴史と生活 イ 「交通・通信の発達」
本時主題	「きつねどん兵衛」の試食を通じて、近世の商品流通のしくみを探求する 2 時間分 / 2 時間		
本時の目標	東西食文化の違いという生活の中の身近な事例について関心をもち、その歴史的背景について考察する。 【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 コンブの消費量などの資料から、近世の商品流通と現代の事象について仮説を立てる。 【技能・表現】 近世の商品流通のしくみを理解する。 【知識・理解】		
指導のねらい	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価
	事前の準備 ・グループ分け(5~6人グループ) ・グループごとに司会者・発表者を決定 ・「日清食品きつねどん兵衛(E)」「同(W)」を各6個 ・お湯、小分け用の紙コップ(人数分×2)、布巾。 ・箸は各自で準備。 ・グループごとに机を寄せて着席(班別学習)		1
・「きつねどん兵衛」は二種類あることを知る。東日本の(E)、西日本の(W)。 15分(経過時間)	Question 1 「きつねどん兵衛」は、関東で売られているものと、関西で売られているものが違うことを知っているか？ 二種類の「どん兵衛」の試食。 班ごとに二種類を配布。紙コップに小分けして試食。		生活の中の事例に、知的好奇心をもつ。 【関】
20分 ・本時のメインテーマの提示。	Question 2 二種類の「どん兵衛」は、どこが違うか？ われわれが普段食べているのは、どちら？ 班ごとの討論。 班ごとに自由に感想を話し合う。		評価方法 発問・挙手・発表
35分 ・資料を活用して、「どん兵衛」の分布図を作成する。	Question 3 (E)と(W)の味の違いの決め手は何か？ Question 4 (E)と(W)は、それぞれどこで販売されているか？ 資料「日清食品広報部からのメール」 ・(E)は「しょうゆ」/(W)は「こんぶ」 資料「平成九年総務庁家計調査」 ・「こんぶ」消費量の多い府県は北陸・西日本。 資料をもとに「どん兵衛」分布図(都道府県別の色分け、こんぶ消費量ベスト10記入)を作成する。		資料をもとに、わかりやすい分布地図を作製する。 【技】 評価方法 プリント提出
50分 ・仮説を立てる。	Question 5 「こんぶ」は、どこで採れるか？ Question 6 北海道のコンブが西日本で多く消費されるのはなぜか？ 「図説」の江戸時代の商品流通の地図を参考に班で仮説を立て、発表する。		日常生活の中の事例に、歴史的な背景があることに着目する。 【思】 評価方法 発問・挙手・発表 北前船および北方交易について理解する。 【知】 評価方法 発問・挙手・発表

指導のねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価
<p>・北前船が松前産のコンブやニシンを大坂にもたらしたことを検証する。</p> <p>65分</p>	<p>Question 7 北前船は、どこをって何を運んだのか？</p> <p>資料「右近権太郎の航海日記」から仮説を検証する。北前船の寄港地と航海ルートを地図に記入する。</p>	<p>資料の読みとり。 資料からわかりやすい地図を作製する。【技】 評価方法 プリント提出</p> <p>5</p>
<p>・コンブ交易の広がりについてエピソードを紹介する。</p> <p>70分</p>	<p>Question 8 沖縄でコンブが多く消費されるのはなぜか？</p> <p>教師による解説。越中の密田家による琉球貿易。松前 北陸 琉球 中国という「コンブロード」の存在。薩摩藩の貴重な収入源として、コンブが幕末維新期における薩摩藩の経済基盤のひとつになっていたことにふれる。</p>	<p>エピソードとしての扱い。深入りしない。</p> <p>6</p>
<p>・江戸の地回り経済圏の発達を知る。あわせて、菱垣廻船や樽廻船の存在を知る。</p> <p>85分</p>	<p>Question 9 「しょうゆ」の産地はどこか？</p> <p>「図説」の江戸時代の特産品の地図から探す。教師による解説。紀伊国で始まった「しょうゆ」醸造が、房総半島経由で関東に伝播。これは「かつおぶし」製法の伝播と同じルートで、いわば「黒潮ルート」が存在した。</p>	<p>菱垣廻船・樽廻船について理解する。【知】</p> <p>評価方法 プリント提出</p> <p>7</p>
<p>・江戸時代の豪商について知る。</p> <p>90分</p>	<p>Question 10 商品流通の担い手は、どのような人々か。</p> <p>プリント「よい子の日本史新聞 / 紀伊国屋文左右衛門」</p>	<p>歴史上の人物に興味を持つ。【関】</p> <p>8</p>
<p>・授業で得た知識を転移させる。</p> <p>100分</p>	<p>Question 11 地域的な特色のある食べ物を探してみよう</p> <p>班ごとに自由に討論、いくつかの班が発表。</p>	<p>歴史的な背景が存在するかも知れない。【思】 評価方法 発問・拳手・発表</p> <p>9</p>

【参考文献】

- ・『社会科授業構成の理論と方法』 森分孝治 明治図書 1978
- ・『だしの本』 藤村和夫 ハート出版 1988
- ・『日本海こんぶロード 北前船』 読売新聞北陸支社編 能登印刷 1997
- ・『北前船と日本海の時代』 日本福祉大学知多半島総合研究所編 校倉書房 1997
- ・『昆布の道』 大石圭一 第一書房 1987
- ・『お醤油の来た道』 嵐山光三郎・鈴木克夫 徳間書店 1990
- ・『文化地理学』 慶応義塾大学火曜パート会編 1997
- ・『敦賀市史』 福井県敦賀市 1985
- ・『河野村史』 福井県南条郡河野村 1984
- ・『日本史探訪 14 江戸期の芸術家と豪商』 角川文庫 1984

【資料編】

1 「日清食品広報部からのメール」

様
はじめまして、この度は弊社ホームページを御覧頂きまして、誠に有り難うございます。
先日は、「日清のどん兵衛」についてのお問い合わせを頂きまして、有り難うございました。
さて、ご質問の「日清のどん兵衛」の味の境界線につきましては、東日本用を名古屋地区より東（東：愛知県、岐阜県、三重県、西：滋賀県、福井県、富山県、石川県）で販売をさせて頂いております。しかしながら、東日本地区においても販売店様のご都合などにより西日本用の商品が販売されている地区がある可能性があります。
ご参考までに、東西の見分け方につきましては、商品側面の「品質表示」の囲み枠下に（E）または（W）と記号を表示致しております。この（E）と（W）が東西を見分ける記号とさせて頂いております。
（E）＝東日本用 （W）＝西日本用
また、だしの味付けにつきましては、「日清のどん兵衛」東日本向けは「カツオ」を基本味としたのに対し、西日本向けは「昆布」の割合を多くしております。
これからも日清食品はよりよい商品作りに努力して参りますので、今後とも弊社商品をご愛顧賜りますとともに、「日清食品ホームページ」をご愛読賜りますようお願い申し上げます。

日清食品株式会社 広報部
〒160-8524 東京都新宿区新宿 6-28-1 TEL 03-3205-5252 FAX 03-3205-5259

2 「平成9年度総務庁家計調査」

一世帯当たりの年間昆布購入金額

順位(前年)	都市名	金額(円)
1 (1)	富山	3,800
2 (6)	京都	2,730
3 (4)	金沢	2,254
4 (2)	福井	2,068
5 (18)	神戸	1,950
6 (23)	静岡	1,937
7 (32)	佐賀	1,918
8 (7)	那覇	1,845
9 (14)	大津	1,840
10 (5)	北九州	1,832
.	.	.
.	.	.
48 (48)	札幌	952

3 「右近権太郎の航海日記」

年	寄港地	入津	出帆	積み荷・売り捌き
弘化4 (1847)	敦賀	-	-	下り物積み
	松前	-	-	
	オタルナイ	-	5/25	下り物売り
	松前	6/5	6/8	胴鯡、身欠、白子、撰鯡、ノ粕 笹目積み
	敦賀	6/20		胴鯡、白子、身欠、残らず売り

	敦賀		6/28	下り物積み
	松前	7/8	7/21	下り物売り
	ヲタスツ	7/22	7/25	当地、荷物一切なく、ヲタ スツ場所荷物買付 胴鯡、身欠、白子、撰鯡、不撰 鯡、昆布、ノ粕、ホッケノ粕、 笹目積み 白子積み
	江差	8/4	8/6	
松前	8/8	8/12		
敦賀	8/24	-	昆布売り	
室津	-	-	胴鯡、不撰鯡、ノ粕売り	
大坂	-	-	ホッケノ粕、撰鯡、笹目、 身欠売り	

胴鯡(どうにしん)：ニシンの腹側の身で、おもに肥料用。ノ身欠(みかき)：ニシンの背側の身で、おもに食用。
白子(しらこ)：ニシンの精巣で、おもに肥料用。ノノ粕(しめかす)：ニシンから魚油を絞った残り、肥料用。
鯡(かずのこ)：ニシンの卵巣で、食用。ノ笹目：ニシンの内臓(白子、鯡、エラを除いたアラ)で、肥料用。
オタルナイ：「小樽内」。現在の小樽市。
ヲタスツ：「歌棄」。積丹半島の南側の湾の最奥部の港。かつてはニシン漁で栄えた漁村。
『北前船と日本海の時代』（日本福祉大学知多半島総合研究所編 校倉書房 1997）より抜粋して転載。
原資料は「右近権太郎諸国日記控」。

4 「よい子の日本史新聞／紀伊国屋文左右衛門」

歴史上の人物を面白おかしく紹介する自作プリント。手書きのため、本稿には掲載省略。

【指導案の注釈】

- 1 試食の時間を節約するため、事前の準備として、どん兵衛に入っている「あげ」をあらかじめ人数分にカットしておいたり、(E)(W)の区別を鮮明にするために二色の紙コップを準備するなど、細部に配慮する必要がある。
- 2 (E)(W)の味の違いは明らかであり、様々な感想が出る。ただし、(W)が「こんぶ」味であることは、食べただけでは今一つはっきりしない。
- 3 日清食品広報部に「どん兵衛」の販売地域を質問したところ、送られてきたメール。試食でははっきりしなかった(W)の「こんぶ」が明記されており、有効な資料となった。販売地域を都道府県別の白地図で色分けする。ちなみに、販売地域の違いはJRのホームの「駅そば」の汁の分布と重なる(「文化地理学」慶応義塾大学)らしく興味深い。
- 4 総務庁家計調査より、「こんぶ」購入金額の多い府県の順位を、「どん兵衛」分布の白地図に重ねて記入する。上位は西日本に集中している。データが平成9年で若干古い(新しいデータが入手できなかった)のと、平成9年に限って沖縄県がトップでなかったのが残念。
- 5 越前国河野村の北前船主「右近家」9代目当主の権太郎が残した帳簿。商品リストや寄港地、出入港の期日などが克明に記録されている。また、『敦賀市史』によると、文久元(1861)年の敦賀入津荷物のうち昆布は約550トン。
売上代銀額は176貫780匁。現在の金額に換算するには諸説があるが、米価をもとにした換算(小野武雄編著『江戸物価辞典』)によると、約8,700万円に相当する。
実際の授業においては、教師自身の調査のエピソード(石川県加賀市や福井県河野村、三国町および敦賀市の博物館における北前船の調査、敦賀市図書館での文献調査、NHK福井放送局への電話取材、敦賀市八幡神社での古文書「大慶屋売り仕切」の調査、敦賀女子短期大学助教授 外岡先生宅訪問など)を語り、問題解決の多様な方法を知らせ、「調べ学習」への動機付けを行った。
- 6 中琉貿易(薩摩藩を通じて行われていた中国と琉球の密貿易)において、「こんぶ」が重要な輸出品であったというエピソード。越中国富山の売薬商「密田家」が、この貿易に深く関わっていたことを示す史料(「密田家譜」)が明らかとなり、明治維新の原動力の一つが「こんぶ」だった、ということで話題を呼んだ。
- 7 「しょうゆ」は、みそ醸造の過程で生じる上澄み液が原型と見られ、さまざまな異説はあるものの、紀伊国湯浅の「経山寺味噌」がルーツの一つと考えられている。1580年頃に湯浅「玉井屋」が醤油醸造を始め、1644年に湯浅の浜口儀兵衛が安房国銚子へ伝えた、とされている。黒潮を回遊する鰹を追って、紀伊国の漁民が安房国にまで展開したことは、千葉県に残る地名(和歌山と同一の地名が多い)や墓碑銘、数々の伝承などから知られる所である。鰹漁・鰹節・醤油には、伝播ルートとして同一のものが想定されるのである。ちなみに、栄養学的にみた「こんぶ」「鰹節」「醤油」の関係について補足。「こんぶ」の旨味成分はグルタミン酸であって、「醤油」と同一なため、「こんぶ」と「醤油」足しても旨味は増さない。「鰹節」のイノシン酸と「醤油」のグルタミン酸を足すと強い旨味を発揮するため、関東では「だし」の基本となったようである。さらに沖縄においては「こんぶ」のグルタミン酸と「豚肉」のイノシン酸が出会ったわけである。
- 8 本来は北前船にかかわりのある人物像(高田屋嘉兵衛など)を取り上げるべきである。日本史への興味・関心という観点から書き足してきた「よい子の日本史新聞」を本時のために流用した。
- 9 生徒からは「雑煮」「みそ汁」「小倉&マーガリン」などの意見が出た。それらの歴史的背景を探ることは容易ではないが、知的好奇心を喚起する、という点でそれなりに評価できるのではないかと。

2 地域素材に配慮した授業展開例

教科(科目)	日本史 A	単元名	(1) 歴史と生活 オ 「地域社会の変化」	
本時主題	本巣郡における富有柿栽培の発展に関する歴史的背景を探究する		2 時間分 / 2 時間	
本時の目標	身近な果物である富有柿について関心をもち、その栽培の開始に関する歴史的背景を考察する。 【関心・意欲・態度】【思考・判断】 地図や統計資料を有効に活用し、富有柿栽培の開始について仮説を立てる。【技能・表現】 昭和初期の社会状況について理解する。【知識・理解】			
指導のねらい	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価	
・ 明治時代と現在では本巣郡における土地利用が異なることを、作業的学習を通じて知る。 30分	「本巣郡の地図(明治22年/平成6年)」の着色作業。 水田、桑畑、果樹園について、それぞれ着色する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> Question 1 何が変化したのか？ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> Question 2 果樹園で栽培されている作物は何か？ </div>		地図記号(桑畑、果樹園)について触れる。 地図をもとに、わかりやすい資料を作成する。【技】 評価方法 プリント提出、行動観察 身近な事例に関心をもつ。【関】 評価方法 発問・挙手・発表	
・ 本時のメインテーマの提示。 ・ 問題の解決。 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> なぜ、本巣郡では桑から柿への転作が行われたのか？ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> Question 3 桑は、何に利用されていたのか？ </div> 明治時代の養蚕、製糸業について概説し、アメリカ向けの輸出を中心に、当時の主要産業であったことを確認。		日常生活の中の事例に、歴史的な背景があることに着目する。【思】 評価方法 発問・挙手・発表	
・ 資料を活用してグラフを作成する。 75分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> Question 4 いつ頃から柿への転作が始まったのか？ </div> 資料「本巣郡の農業(明治45年～昭和13年)」を元にグラフを作成し、発表する。 桑畑面積は棒グラフ(左目盛り) 繭と柿の生産価額は折れ線グラフ(右目盛り)		副教材の『図説』を利用して概説する。 養蚕・製糸については、野麦峠などの学習をとおして中学校段階で十分学習している。	
・ 製糸業の衰退(=桑畑の減少)の原因を歴史的に考察する。 ・ 副教材の『図説』巻末年表などから仮説を立てる。 85分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> Question 5 なぜ、転作が始まったのか？ </div> 「昭和5(1930年)」、「生糸のアメリカ向け輸出」などのキーワードをヒントに、製糸業の衰退を類推する。 いわゆる「昭和恐慌」について概説する。 柿栽培の先駆者である「松尾松太郎」について紹介する。		日常生活の中の事例に、歴史的な背景があることに着目する。【思】 評価方法 発問・挙手・発表 副教材の『図説』を利用して概説。 郷土の先駆者に興味・関心をもつ。	
・ 柿栽培の発展(=果樹園の増加)の背景として、消費者としての都市市民の形成に触れる。 95分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> Question 6 柿を買ったのは、どのような人々か？ </div> 資料「六大都市における富有柿の主産地別総販売量(昭和11年度)」をもとに考える。 大正時代から昭和初期の都市化について概説する。岐阜市の繁華街の形成についても触れる。		身近な郷土の発展に関心をもつ。 【関】 評価方法 近代史の考查問題とする	
・ 本時の直接のテーマではないが、近代史学習への動機付けとして扱う。 100分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> Question 7 不況から脱出するために、どんな施策が行われたか？ </div> 岐阜県における公共事業(岐垣国道や橋梁建設)について概説する。 満州移民についても触れる。		生徒の通学路に該当する橋があれば生徒に確認する。	

【参考文献】

- ・『社会科授業構成の理論と方法』 森分孝治 明治図書 1978
- ・『地図で見る岐阜の変遷』 (財)日本地図センター 1995
- ・『岐阜県史 通史編 近代中』 岐阜県 1970
- ・『岐阜県統計』 岐阜県図書館マイクロフィルム
- ・『糸貫町史』 糸貫町 1982
- ・『糸貫町と柿の歴史探訪』 棚橋武治 糸貫町富有柿センター 1998
- ・『ふるさと糸貫の歴史』 糸貫町 1977
- ・『岐阜県道路史』 岐阜県土木部 1992
- ・『わかりやすい岐阜県史』 岐阜県法令政策課 2002

【資料編】

1 「本巣郡の地図(明治22年/平成6年)」

『地図で見る岐阜の変遷』((財)日本地図センター 1995) より、本巣郡の部分を拡大コピーして使用。本稿には掲載不能なので省略。入手先は、岐阜県地図センター(岐阜県立図書館内)

2 「本巣郡の農業(明治45年~昭和13年)」

西暦(和年号)	桑畑面積(反)	繭の生産価額(円)	柿の生産価額(円)
1912(明治45)	623.4	396,312	7,401
1916(大正5)	690.0	785,663	9,597
1921(大正10)	803.6	975,850	74,617
1926(大正15)	833.2	1,783,161	131,674
1927(昭和2)	824.5	1,325,587	118,950
1928(昭和3)	878.3	1,142,575	153,185
1930(昭和5)	920.5	699,350	128,934
1931(昭和6)	920.5	585,414	199,263
1933(昭和8)	821.1	9,31429	164,029
1934(昭和9)	788.8	367,006	192,125
1935(昭和10)	716.6	683,184	220,330
1936(昭和11)	678.7	636,190	239,755
1938(昭和13)	632.1	545,580	323,863

『岐阜県統計』マイクロフィルムより作成。1929(昭和4)・1932(昭和7)・1937(昭和12)は、欠損。

3 「六大都市における富有柿の主産地別総販売量(昭和11年度)」 単位は「貫」

主要産地	総販売量	東京	横浜	京都	大阪	神戸	名古屋
岐阜	406,102	142,000	19,000	46,000	18,000	14,000	165,000
和歌山	278,387	15,000	-	21,000	201,000	39,000	-
愛知	83,550	24,000	-	-	-	-	58,000
奈良	71,571	-	-	23,000	32,000	15,000	-
岡山	52,920	1,000	-	-	11,000	39,000	-
京都	43,165	-	-	27,000	15,000	-	-
香川	34,251	-	-	-	32,000	-	-

『糸貫町と柿の歴史探訪』(棚橋武治 糸貫町富有柿センター 1998) より転載。原資料は「帝国農会青果物市況調査」。

【指導案の注釈】

- 『地図で見る岐阜の変遷』に所収されている25,000分の1の地図を用いて着色作業を行う。土地利用に関して、明治22年の桑畑や水田と、平成6年の果樹園とが見事に対比できる。
- 「地理」を履修していないため、桑畑や果樹園の地図記号について説明する必要がある。

- 果樹園で栽培されている果物については、該当地域から通学してきている生徒に答えさせる。統計資料としては、東海農政局岐阜統計情報事務所から毎年刊行される、「岐阜県の野菜と果実」に詳しい。岐阜県全体では、果実の総出荷量27,700トンのうち、柿が18,400トンを占める。平成11年度における市町村別の出荷量は、右表のとおり。

順位	市町村名	出荷量(トン)
1	糸貫町	4,950
2	岐阜市	3,500
3	揖斐大野町	3,470
4	真正町	1,910
5	巢南町	1,880

- 桑が蚕のエサであることが、発問から出にくかった。副教材の「図説」を用いたり、自分自身の小学校時代の経験(教室で蚕を育てていた)を話した。
- グラフ化すると、昭和5年に養蚕が大打撃を受け、その後も低迷したことが明白にわかる(昭和4年の「岐阜県統計」が欠損しているのが残念)。一方、柿は昭和初期頃から順調に売り上げを伸ばし、昭和恐慌の数年後(おそらく栽培開始から収穫までのタイムラグと推測できる)には倍増したことが読みとれる。

本時の資料作りのために、岐阜県図書館所蔵のマイクロフィルムから大正から昭和初期の郡市ごとの農作物の生産価額を拾い出す作業を行なった。昭和5年の繭価額の暴落と、それと入れ替わるかのように柿価額が増大していく様子が明白にデータとして現れたときは、我ながら面白かった。できれば、この感激を生徒自身に味あわせたいと思った。今回の学習指導要領の改訂の趣旨の一つに、「生涯学習」「学び方や調べ方の学習」がある。これを踏まえるとき、生徒に何をどこまでどのように調べさせるかということが問題になってくる。『学習指導要領解説』においては博物館や図書館の利用、情報通信機器の活用などがうたわれているが、具体的な授業をイメージした場合、なかなか良い智恵が浮かばないというのが正直なところではないだろうか。本時「富有柿」の授業も、生徒に何かを調べさせるのではなく、教師が調べた結果を生徒に提示して考察(探求)させるという従前の授業形態である。今後、「生徒に調べさせて発表させる授業」についての具体的な研究が必要になってくると思う。

- 富有柿の先駆者「松尾松太郎」については、『糸貫町史』に詳しい。松尾松太郎は1912(明治45)年に水田をつぶして柿苗30本を植えたのを皮切りに柿畑を拡張し、1917(大正6)年には1万個の柿を収穫し、300円の収入を得(当時の席田村=現在の糸貫町の平均的な米価は1俵7円。米の反収は5俵から5俵半。小作料が3俵から3俵半)。この結果を受けて松太郎は近隣の農家にも柿栽培を勧め、産地を形成した。
- 大正時代から昭和初期の産業の発達は、都市人口の増加や文化の大衆化を促進した。こうした大都市の市民層が柿の消費者であったことが資料からも読みとれるとともに、岐阜県は柿の販路を全国展開していたことがわかる。あわせて、身近な都市として岐阜市における繁華街の形成について触れる。『わかりやすい岐阜県史』によると、柳ヶ瀬商店街のアーケード完成が1928(昭和3)年、「丸物」の出店が1930(昭和5)年である。また、文化の大衆化という面からは、下呂温泉の本格的な開業が1931(昭和6)年、木曾川のライン下りの開始が1928(昭和3)年など、生徒の興味・関心を引きそうなネタが多く記載されている。

- 昭和恐慌への対策として、政府は1932(昭和7)年から「時局匡救事業」と称する公共土木事業を大々的に実施した(ただし、アメリカのニューディール政策のような大きな成果を上げる前に、日中戦争開始による軍事費増大にともなって、すぐに縮小する)。岐阜県下においても、岐垣国道(旧国道21号線、現在の県道 岐阜大垣線)の建設をはじめ、県道整備や橋梁の新設工事が積極的に遂行された。この時期に新設された橋を抜粋したものが右の表である。これらの橋の多くは共通の設計図に基づいた鉄筋コンクリート製の橋で、幅員が5.5メートルと狭かったため、現在では大半が架け替えられているが、生徒の通学路に当たっている物も中にはあり、興味・関心を引くことができた。

	橋の名称	架橋場所
時局匡救事業	長良大橋	岐垣国道
	墨俣橋	岐垣国道
	揖斐大橋	大垣 - 安八
	海老橋	北方真正 - 大野
	多芸橋	養老 - 赤坂
	繰舟橋	黒野 - 岐阜
	土岐橋	瑞浪停車場線
	中央橋	土岐市停車場線
	保土島橋	溝口 - 下白金
一般会計予算	藪川橋	国道303号
	海津橋	南濃 - 海津
	藍川橋	太郎丸 - 芥見
	鮎之瀬橋	関市小瀬
	南濃大橋	羽島大須 - 平田
	今尾橋	養老 - 平田
平野庄橋	大野 - 神戸	
木曾川橋	羽島 - 稲沢	

昭和7～9年に着工した主要な橋
(『岐阜県道路史』より作成)

3 体験的学習に配慮した授業展開例

教科(科目)	日本史 A	単元名	(1) 歴史と生活 ア 「衣食住の変化」
本時主題	「きびだんご」の調理・試食を通じて、近世～近代の農民の生活を探求する 2 時間分 / 2 時間		
本時の目標	童話に出てくる「きびだんご」に関心を持ち、それが食べられていた時代の人々の暮らしを考察する。 【関心・意欲・態度】【思考・判断】 統計資料や古記録から、雑穀食の歴史的背景について仮説を立てる。【技能・表現】 近世・近代の農民の生活の一端を理解する。【知識・理解】		
指導のねらい	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価
・米が常食される以前の雑穀食について、その実際を体験的に理解する。 「きびだんご」と「ひえ飯」の調理および試食。 50分	Question 1 『ももたろう』に出てくる「きびだんご」とは何か？ Question 2 黍(きび)の他に、昔の人々が食べていた雑穀には、どのようなものがあるか？ 「きび」「ひえ」「あわ」の観察。 「きびだんご」「ひえ飯」の調理。 雑穀や米は事前に計量して班ごとに分けておく。 レシピを書いたプリントを配布して説明。 弁当用のアルミケースを用いて小分け 試食。 自由に感想を発表する。		副教材の『図説』を利用して調べる 評価方法 発問・挙手・発表 生活の中の事例に知的好奇心をもつ。【関】 評価方法 行動観察
・様々な資料から、実証的に当時の食生活を理解する。 60分	Question 3 江戸～明治時代の人々は、実際に何を食べていたか？ 資料「常食構成比」及び「常の食、ハレの食」より当時の一般的な食事の内容を読みとる。 資料「津嶋神社左義長占い」より、雑穀類が主要な農作物であったことを類推する。 「きびだんご」は、食事か、おやつか？		資料を有効に活用する。【技】 評価方法 発問・挙手・発表
・本時のメインテーマの提示 ・具体的な資料から仮説を立てる。 75分	農民は、米を栽培しながら十分に米が食べられなかったのはなぜか？ 資料「江戸時代の農民の収支決算」より、江戸時代の過重な年貢の実体を理解する。 飢饉対策としての備蓄、危険を分散するための多品種栽培にも言及する。		歴史的な背景に着目する。【思】 評価方法 発問・挙手・発表 資料を有効に活用する。 近世における幕府の農民支配の実体を理解する。
・明治以降の農民の生活実態を知る。 ・寄生地主制度について理解する。 85分	Question 4 米を十分に食べられない状態はいつまで続いたのか？ 資料「大正～昭和初期の岐阜県内の食事」より、食生活を読みとる。 地主・小作制度について概説する。		米を食べることができない状態が続いたこと、しかしながら食事内容が改善の方向に向かっていること、同じ岐阜県内でも地域的な格差があることなどに気付き、その歴史的背景を考察する。【思】 評価方法 発問・挙手・発表
・養蚕などの副業により、生活の向上が見られることに気付く。 95分 100分	Question 5 大正～昭和初期の農家の食生活の内容が向上しているのは、なぜか？ Question 6 農家の人々は、生活向上のためにどのような努力をしていたか？ 農家が現金収入の道を懸命に求めていたこと（以前に学習した養蚕や柿栽培を想起させる）にも言及する。 戦後の農地改革について概説する。		

1

2

3

4

5

【参考文献】

- ・『社会科授業構成の理論と方法』 森分孝治 明治図書 1978
- ・『全集 日本の食文化 第三巻 米・麦・雑穀・芋』 太田泰弘ほか編 雄山閣 1998
- ・『全集 日本の食文化 第十巻 日常の食』 江原絢子ほか編 雄山閣 1977
- ・『ヒエという植物』 山口裕文 全国農村教育協会 2001
- ・『雑穀 つくり方・生かし方』 ライフシードネットワーク編 創森社
- ・『雑穀つぶつぶクッキング』 大谷ゆみ子 創森社
- ・『日本の食生活全集 21 聞き書岐阜の食事』 農産漁村文化協会編 1990

【資料編】

1 「常食構成比」 単位は%

	1840年代	1877年
米	54.0	53.8
麦	29.9	31.6
雑穀・豆	12.6	7.6
甘藷	3.5	6.9

『全集 日本の食文化 第十巻』より転載

2 「常の食、ハレの食」(天保年間=1840年頃 の信濃国の農家の食事)

7月	朝	昼	夕	7月	朝	昼	夕
1	ひば飯	ひば飯	ひえ粥	16	白飯	白飯	白粥
2	ひば飯	ひば飯	つみ入		煮物	煮物	
3	ひば飯	ひば飯	おやき		汁	汁	
4	ひば飯	ひば飯	ひえ粥	17	ひば飯	ひば飯	ひえ粥
5	ひば飯	ひば飯	つみ入	18	ひば飯	ひば飯	つみ入
6	ひば飯	ひば飯	おやき	19	ひば飯	ひば飯	おやき
7	白飯	白飯	白粥	20	ひば飯	ひば飯	ひえ粥
	煮物	煮物		21	ひば飯	ひば飯	つみ入
	汁	汁		22	ひば飯	ひば飯	おやき
8	ひば飯	ひば飯	ひえ粥	23	ひば飯	ひば飯	ひえ粥
9	ひば飯	ひば飯	つみ入	24	ひば飯	ひば飯	つみ入
10	ひば飯	ひば飯	おやき	25	ひば飯	ひば飯	おやき
11	ひば飯	ひば飯	ひえ粥	26	ひば飯	ひば飯	ひえ粥
12	ひば飯	ひば飯	つみ入	27	白飯	白飯	つみ入
13	ひば飯	ひば飯	うどん		煮物	つけもの	
14	ぼた餅	白飯	白飯		汁		
	うり	煮物	煮物	28	ひば飯	ひば飯	つみ入
		汁	汁	29	ひば飯	ひば飯	おやき
15	白飯	白飯	そば	30	ひば飯	ひば飯	ひえ粥
	煮物	煮物					
	汁	汁					

『全集 日本の食文化 第十巻』より

3 「江戸時代の農民の収支決算」

仙台藩の農家 宝暦3(1753)年

石高	田 6反 畑 4反
収入	米 12石9斗4升 (うち年貢 6石7斗2升) 大豆 4石 (うち畑年貢 1石2斗) 年貢納入後の売却代金 14貫280文(¥242,760)
支出	村入用 2貫255文(¥ 43,248) 諸費用 18貫795文(¥319,515)
残高	6貫711文(¥120,000)

『全集 日本の食文化 第三巻』より転載

「ひば飯」= 干葉(乾燥させた大根などの葉)を混ぜた、白米と大麦の混合飯

「つみ入」= 小麦粉や蕎麦粉のすいとん入りの汁

「おやき」= 小麦粉や蕎麦粉をこねて囲炉裏の中で焼いたもの

4 「大正～昭和初期の岐阜県内の食事」

	春	夏	秋	冬
恵那郡 東野村 (現在の 恵那市)	朝 麦飯、みそ汁、煮豆 昼 朝食の残り、小魚 夕 麦飯、かき玉汁、 春菜の胡麻あえ	朝 麦飯の卵かけ、みそ汁 昼 麦飯、焼なす、胡瓜 夕 麦飯、煮なす、胡瓜、 煮かぼちゃ	朝 麦飯、みそ汁、漬物 昼 麦飯の茶漬、漬物 夕 麦飯、きのこ汁、へば いなご、焼さより	朝 麦飯、みそ汁、漬物 昼 朝食の残り 夕 麦飯、大根・里芋の汁、 漬物、鰯の丸干
大野郡 白川村	朝 ひえ飯、みそ汁、山菜 昼 ひえ飯、みそ汁、山菜 夕 ひえ飯、みそ汁、山菜 ねぎ味噌	朝 麦飯、ジャガイモの汁 昼 朝食の残り、ささげ 夕 朝食の残り、胡瓜	朝 ひえ飯、みそ汁、 煮大根 昼 朝食の残り 夕 朝食の残り、焼なす	朝 とち餅、みそ汁、漬物 昼 ひえ飯、みそ汁、漬物 夕 ひえ飯、みそ汁、漬物 山菜の煮付
海津郡 海津町	朝 麦飯、みそ汁、漬物 昼 麦飯、はえの佃煮 夕 麦飯、煮豆、澄し汁、 ジャガイモの煮つけ	朝 麦飯、みそ汁、漬物 昼 麦飯、はえの佃煮 夕 麦飯、しじみ汁、胡瓜 煮なす	朝 麦飯、みそ汁、煮豆 昼 麦飯、さと芋、漬物 夕 麦飯、みそ汁、たに し、焼さんま	朝 麦飯、みそ汁、漬物 昼 麦飯、ふな味噌、漬物 夕 麦飯、里芋、ふな大根

「麦飯」は、恵那郡東野村や海津郡海津町では白米8・大麦2の混合。大野郡白川村では白米5・大麦5の混合。

『日本の食生活全集 21 聞き書岐阜の食事』より抜粋して作成

【指導案の注釈】

- 1 ブランターで栽培した「きび」「ひえ」「あわ」及び脱穀後の状態を観察する。種の入手先は、ライフシーードキャンペーン事務局（東京都文京区関口1-17-9 03-3269-0833 メールアドレス info@ilfa.org 費用は500円程度）。5月中旬に種まき。水さえ欠かさなければ放っておいても成長する。掃除当番に水撒きを依頼した。「農業体験」という程のものではない。雑穀の入手先は庄村米穀店（郡上郡八幡町島谷今町1146番地。0575-65-2431。費用は一種類200g入りで1000円程度）。
- 2 事前の準備として、「きびだんご」「ひえ飯」「あわ餅」を調理しておく。材料となった雑穀の入手先は、前述の庄村米穀店。伝統食の復活・普及を目指して講習会などのイベントも主催している。調理方法に関しては『雑穀つぶつぶクッキング』（大谷ゆみ子 創森社 1999）を参考にした。調理実習が不可能ならば、（事前の準備は必要だが）教師が調理したものを生徒に試食させる、という方法もある。かつて「地理A」を担当していたときに、「世界の食文化」の学習において「粉食」をテーマに調理実習を行ったことがある。家庭科とのT・Tで、「トルティーヤ(南米)」、「ベトナム春巻」、「チャパティー(インド)」、「日本そば」などを実際に調理して食べる、という内容の授業である。本授業は、この調理実習がヒントとなっている。
「体験的学習」に関しては、家庭科の理解が得られれば、家庭科とのT・Tは有効な方法だと思う。
- 3 資料「常食構成比」は、『全集 日本の食文化 第十巻』に収められている西川俊作氏の論文（「移行期の長州における穀物消費と人民の常食」）からの引用。長州藩（山口県）には、1841年に藩命によって作成された「防長風土注進案」という調査報告書があり、また1886年の「山口県第四回勸業年報」という統計書があって、一般の人々が何を常食としていたかについての克明な数値が判明する。これによると、当時の平均的な山口県民の常食構成は、米が50%強、麦30%、残りが雑穀や甘藷といった割合であり、幕末においても明治時代においても、その構成比に大きな変化はない。つまり、江戸時代が終わって急激に生活が向上したわけではない。
資料「常の食・ハレの食」は、同じく『全集 日本の食文化 第十巻』に収められている向山雅重氏の論文（農村の食生活）から、7月の部分を引用して加工。信濃国伊那郡前沢村小輪田に残る名主の「年内行事日記帳」（林家文書。天保十五年）から、年内行事とその折々の食事内容を知ることができる。これによると、7月中旬の盆や祭礼の日を除くと、普段の朝食と昼食は「ひば飯」、夕食は「つみ入」「おやき」「ひえ粥」の単調な繰り返しであった。
これらの資料から、白米を中心としつつも麦類や雑穀、甘藷などがこれを補うという主食体系が推測できる。
- 4 資料「津嶋神社左義長占い」は、大垣市北方町の津嶋神社の毎年の左義長において、農作物の豊凶を占った結果が町内に配布されるもの。現在においても、占いの項目に種々の雑穀があることを読みとらせ、かつては重要な作物であったことを類推する。
- 5 資料「江戸時代の農民の収支決算」は、同じく『全集 日本の食文化 第三巻』に収められている宮内輝武氏の論文（「飲食物の収支決算」）。原資料は児島幸多『近世農民生活史』吉川弘文館）から引用。収穫のほぼ半分を年貢として納めていたことや、収支決算が赤字となっている実体がわかる。
- 6 資料「大正～昭和初期の岐阜県の食事」は、『日本の食生活全集 21 聞き書岐阜の食事』に収められている8つの地域の聞き書き資料から抜粋して作成。さまざまな読みとり方ができる資料であるが、以下のような意見が期待できる。この時代になっても、白米は常食されていない。恵那郡や海津郡では麦飯の米の割合が高い。副食は質素ながら、山川や畑で取れる季節の食材を取り入れている。「鯛」や「さより」「さんま」など、現金で購入したと見られるものも散見する。大野郡白川村では「とち餅」「ひえ飯」など堅果類や雑穀が常食されていた。これらの背景に、農業生産力の向上とともに養蚕などの副業的現金収入の増大があげられる。例えば恵那郡東野村の場合、養蚕による収入は白米の購入に充てていたという。

4 生徒の主体的活動に配慮した授業展開例

教科(科目)	日本史 A	単元名	第 1 章 歴史と生活
本時主題	「調べ学習」の発表 (5 時間目 / 5 時間配当)		
本時の目標	「調べ学習」の発表を通じて、友人の発表内容や方法に興味・関心をもつ。【関心・意欲・態度】 まとめ方や発表の方法について、より効果的な方法を考える。【技能・表現】		
指導のねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・「調べ学習」におけるクラスメートの取組の概要を理解する。 5分	プリント「研究テーマ一覧」の配布 いくつかの作品について、教師のコメント紹介	友人の取組に興味・関心をもてるように紹介する。	
<ul style="list-style-type: none"> ・より効果的な発表方法を考える。 ・友人の発表に興味関心をもつ。 25分	グループ内での発表会 ・グループは「好きな子どうし」の 4～6 名。事前に作っておく。 ・司会者、発表順なども事前に決めておく。 ・発表内容（動機・内容・工夫した点）についても事前に指導して準備させておく。	プリントに感想や評価を記入。【技】 行動観察による指導 評価方法 プリントの事後提出で確認	
<ul style="list-style-type: none"> ・友人の発表に興味関心をもつと同時に、どこが優れているのか考察する。 40分	代表者によるクラス全体での発表 ・優秀な作品を提出した生徒に、事前に依頼しておく。 ・発表内容や方法について、事前に指導しておく。 ・聞く姿勢について指導する。	どこが優れているのか、自分の作品と比較。 評価方法 プリントの事後提出で確認	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品に対する自己評価を行う。 50分	自己評価 ・今回の「調べ学習」に関する自己評価を行う。評価の観点については、あらかじめ指定しておく。 ・単元（「歴史と生活」）全体についての感想をまとめさせる。	「問題発見力」「自己解決力」「自己表現力」の各項目について自己評価。【関】 評価方法 プリントの事後提出で確認	

【参考文献】

- ・『調べ学習 社会科の授業づくり 3 歴史上の人物を調べる授業』 北俊夫編著 国土社 1997
- ・『新学力観に立つ社会科授業の理論と方法』 北俊夫 明治図書 1995
- ・『「社会科の授業」はどう変わらなければならないか』 北俊夫 明治図書 1997
- ・『中学授業のネタ 歴史』 河原和之/馬場一博著 日本書籍 1996
- ・『「総合的な学習の時間」の理論と実践 情報編』 岡本敏雄編著 実教出版 2000

【資料編】

1 研究テーマ一覧

	研究テーマ		研究テーマ
1	山本五十六	39	ラーメンについて
2	苗字について	40	明智光秀
3	鵜飼	41	回転寿司の歴史
4	舞妓さんの歴史	42	高富大龍寺と「だるま」
5	日本代表のシンボルマーク 八咫烏	43	コンビニの歴史
6	駄菓子	44	鵜飼の歴史
7	坂本龍馬	45	昔の学校行事
8	衣服の変化と流行	46	徳川家康
9	日本の童謡	47	太平洋戦争はどのようにして起こったか
10	マクドナルド	48	日本の通貨単位はなぜ「円」？
11	チョコレートの歴史	49	コーラの歴史
12	髪型 流行の歴史	50	コンビニの歴史
13	円空	51	名古屋鉄道の車両
14	田中角栄	52	長良川の治水
15	イタスパ発祥の秘密	53	新撰組
16	中部地区限定食べ物のナゾ	54	西洋音楽が日本に来たとき
17	斎藤道三	55	結婚の歴史
18	かき氷の歴史	56	テレビの視聴率
19	日本の塩づくりの歴史	57	「鬼」について
20	手力雄神社の火祭り	58	割り箸の話
21	春慶塗	59	コンビニの歴史
22	古田織部	60	枕の秘密
23	テニスの歴史	61	「おじぎ」について
24	忍者について	62	バレンタインデー
25	アイスクリームの歴史	63	テーマパークの歴史
26	竹取物語の研究	64	松尾芭蕉
27	世界のバレンタインデー	65	日本人はなぜ浴衣を着るのか
28	日本で行われたスポーツの祭典	66	ハヤシライスを作ったのは早矢仕有的
29	チョコレートが日本に来るまで	67	バレンタインデー
30	日本の民族衣装	68	日本人の苗字
31	ゆかた	69	日本の昔話
32	方言の歴史	70	味噌の歴史
33	日本初の遊園地「浅草花やしき」	71	カラス
34	クリスマス	72	雨乞い「十六拍子」
35	ハヤシライス	73	お風呂と風呂敷
36	パンの歴史	74	オムライスの歴史
37	自動販売機の歴史	75	天ぷらの歴史
38	花火の歴史	76	たこ焼きの生い立ち

2 「自己評価シート」

<p>テーマを決めよう</p> <p>1、特に興味のある歴史上の人物 例) 坂本龍馬、宮本武蔵、ヤマトタケル</p> <p>2、「地元ネタ」 例) 地元ならではのディープな人物 —— 円空、杉原千畝、瀬古安太郎 地場産業の歴史 —— 岐阜ちょうちん、美濃和紙、各務原市の航空機産業 地元の祭り・伝統芸能 —— 各務原村国座の地歌舞伎、手力雄神社の火祭り</p> <p>3、じいちゃん、ばあちゃんからの聞き取り 例) 昔の遊び、戦時中の暮らし、伊勢湾台風</p> <p>4、「学校ネタ」 例) 昔の給食の献立、修学旅行の行き先、岐山高校の部活動の戦績</p> <p>5、日常生活に関すること 例) 衣食住 —— 「ちょんまげ」って何？、昔の人の食事、住宅の変遷 発明や開発 —— インスタントラーメンの歴史、松下幸之助の生涯 年中行事 —— ひなまつり、七夕、こいのぼり その他の疑問 —— 車はなぜ左側通行？、花咲かじじいの犬は「ポチ」「シロ」</p>	
<p>テーマの候補</p> <p>調べようと思った理由</p> <p>調べる方法</p>	<p>そのテーマについて何を調べたいか</p> <p>既に知っていること</p> <p>まとめ方の工夫</p>
<p>アドバイス</p>	
<p>自己評価シート</p> <p>問題発見力（調べがいのある面白いテーマであったか） —— 5・4・3・2・1</p> <p>自己解決力（調査の方法は適切であったか） —— 5・4・3・2・1</p> <p>自己解決力（調査の内容は満足のいくものであったか） —— 5・4・3・2・1</p> <p>自己表現力（調査結果を上手くまとめることができたか） —— 5・4・3・2・1</p> <p>自己評価（全体を通じての満足度） —— 5・4・3・2・1</p> <p style="text-align: right; margin-right: 100px;">2年 組 番</p> <hr style="width: 100%; margin-top: 10px;"/>	

【指導案の注釈】

単元の全体指導計画は以下に示すとおりである。本時は、単元の最終項目「5、自由テーマによる調べ学習」の第5時間目に相当する。

単元の全体指導計画

第1章 歴史と生活

単元の目標

作業的・体験的学習を導入し、多様な学習活動を工夫することにより、生徒の主体的な学習活動を促進し、課題を解決する能力を育成する。

各時間ごとの内容

1 交通・通信の発達（どん兵衛食べ比べ）＝問題発見力		2 時間配当	
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
1	日本の東西の食文化の違い	二種類の「きつねどん兵衛」を試食して、東西の食文化の相違の歴史的背景を考察する。【関】	試食の感想を発表させる 東西の相違の背景について推理・発表させる。
2	背景にある歴史的な要因の推察 調査方法の理解	近世の商品流通と現代の事象について仮説を立てる。【技】 北前船の昆布交易、関東地回り経済圏を理解する。【知】	ノート点検

2 「歴史上の著名な人物」に関する調べ学習＝自己解決力、自己表現力		3 時間配当	
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
1	インターネットの利用方法の理解 調査テーマの設定	インターネットの利用方法を理解する。【知】	行動観察による個別指導
2	調査	42人の中から選択し、テーマ設定。【思】 インターネットや文献で調査。【思】	行動観察による個別指導 行動観察による個別指導
3	レポートの作成	調査内容をのまとめる。【表】	レポート提出

3 地域社会の変化（糸貫町の富有柿栽培）＝問題発見力		2 時間配当	
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
1	二種類の地図(明治22、平成9)の比較	富有柿の栽培に関してその栽培の開始に関する歴史的背景を考察する。【関】【思】	相違点を発表させる。
2	背景にある歴史的な要因の推察 調査方法の理解	統計表をグラフ化し、桑から柿へと変化した理由を推理する。【技】 昭和初期の社会状況について理解する。【知】	ノート点検 変化の理由の推察と発表 ノート点検

4 衣食住の変化（きびだんご）＝問題発見力		2 時間配当	
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
1	きびだんご、ひえめしの調理、試食	調理実習を行い、雑穀食を体験し、それが食べられていた時代の人々の暮らしを考察する。【関】	行動観察による指導
2	背景にある歴史的な要因の推察 調査方法の理解	資料から、食生活の変化について考察する。【技】 近世・近代農民の生活を理解する。【知】	江戸時代～昭和初期の食生活の変化について発表 ノート点検

5 「自由テーマ」による調べ学習＝自己解決力、自己表現力		5 時間配当	
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
1	調査テーマの設定	テーマ設定および調査計画の作成 【思】	行動観察による個別指導 レポート提出
2	調査およびレポートの作成	インターネットや文献、その他の方法による調査。【思】	行動観察による個別指導
4		調査内容をのまとめる。【関】	レポート提出
5	発表会	調査した内容を発表する。【技】	自己評価シート提出

「『新学力観に立つ日本史Aの授業実践 ー覚えないう日本史ー』を實踐して」

1 テーマ設定の理由

「日本史A」と「日本史B」の違いは何なのか？、と自問し続けて来た。実際の授業にあたっては「日本史A」は「日本史B」の内容を薄めたものに過ぎず、そのことにずっと違和感を感じ続けていた。

今回のカリキュラム改編において、大項目「(1)歴史と生活」が追加されたことによって、より一層「日本史A」の性格が鮮明になったように思う。そこで、学習指導要領解説(作業的・体験的学習の導入、多様な学習活動の工夫、生徒の主体的な学習活動の促進、課題を解決する能力の育成)を具現化することで、「日本史A」の授業展開をドラスティックに転換しようと考えた。

2 実践の内容と反省・今後の課題

- ・生徒が自ら課題を設定する力を「問題発見力」として位置づけた。具体的には、何について研究したいのか(研究テーマの設定)、なぜ研究したいのか(研究の動機や目的の明確化)、どのような視点から研究に取り組むのか(既に知っていること、もっと知りたいことの明確化)、どこでどのように調べるのか(研究計画の作成)などの項目である。「問題発見力」には、生徒の知的好奇心や探求意欲が密接に関わっていると考え、「(1)歴史と生活」において、三つの授業を実施した(授業指導案は別途掲載)。
- ・実際の授業展開においては、体験的学習や作業的学習を意識的に多用した。ただし、「体験」は必要であるが、「体験」そのものに価値があるのではなく、「体験」から何を導き出すか、が重要なポイントとなるであろう。昭和22年の学習指導要領における「問題解決学習」が、やがては「這い回る経験主義」と揶揄されて消滅していった二の轍を踏まないように頑張りたい。
- ・生徒が自ら課題を解決する力を「自己解決力」として位置づけた。「問題発見力」の授業展開の中で、様々な調査方法(図書館、博物館、現地での調査、インターネット、テレビ番組、メーカーへの問い合わせ、専門家の話等々)があることを具体的に生徒に提示した。また、統計を読み取ったり、地図にまとめたりすることも授業に意識的に取り入れた。
- ・調べた内容を、工夫してまとめる力を「自己表現力」として位置づけた。単純なペーパーレポートだけでなく、様々な表現方法があることを紹介したが、実際の生徒の活動においては反映されず残念であった。
- ・「調べ学習」に、生徒自身がどの程度満足できたかを自己評価させて、これを「自己評価力」として位置づけた。研究成果の良否だけでなく、自分が研究の過程を楽しむことができたかが生徒の意欲を高め、ひいては新たな「問題発見力」の醸成につながると考えた。